

ナニワクチミゾガイ *Eostrobilops nipponica reikoeae* Matsumura et Minato

【選定理由】

1997年の大阪府陸産貝類調査で発見された小型の陸産貝類である。栗飯原氏が1993年に大府市森岡町愛知健康の森で採集しており、その後の大規模開発で正確な位置が特定できないでいたが、河辺氏が1999年4月に、早瀬氏が1999年10月に大府市森岡町愛知健康の森付近のやや離れた地点で多産地点を確認した。クチミゾガイ科の貝は比較的珍奇で稀産である。



大府市森岡町 愛知健康の森, 2007年2月16日, 木村昭一採集

【形態】

貝殻は小型(殻高1.5~1.8 mm、殻径2.5~2.8 mm)で堅固、低いドーム形状の螺塔で底面は膨れる。螺層は約5層で緻密に巻き、縫合は深い。臍孔は狭く開き殻径の1/5に相当する。殻色は暗赤褐色で鈍い光沢がある。殻口は半月形で、内唇滑層は厚く、和名の元となった2本の体壁板が内部へ走る。

【分布の概要】

大阪府の淀川以北の高槻市、茨木市、箕面市等に分布し、淀川以南からは確認されていない。愛知県大府市森岡町愛知健康の森でも生息することが確認されたが、模式産地一帯に比べて生息密度が高い点でも貴重である。

【生息地の環境／生態的特性】

マツシマクチミゾガイの生息環境が淡水貝と間違えるほど水の滴る倒木下などであることに比べると、本種は陸貝の中でははるかに標準的である。

本種は標高20~80 mの丘陵地とその周辺のコナラ・クヌギ等の二次林の比較的乾燥した落葉下にみられる。しかし、落葉下部は適度な湿り気を帯びているところが多く、そこに本種が群棲している。従来のクチミゾガイ科の貝とは分布地がはるかに離れた西方地域で、しかも標高が低い丘陵地の二次林であること等、特異な種類である。

【現在の生息状況／減少の要因】

大阪府北部及び愛知県大府市森岡に分布が限定されている。今のところ減少はしていないようであるが、場所的に開発の波に襲われやすい地域なので、それが心配である。

【保全上の留意点】

現在の生息確認地一帯のコナラ・クヌギの二次林を保護するように留意する。

【特記事項】

大阪府では絶滅危惧Ⅰ類に指定している。

【関連文献】

松村 勲・湊 宏, 1998. 大阪府北部で採集されたナニワクチミゾガイ(新亜種), *VENUS* 57 (1): 39-47. 日本貝類学会.

河辺訓受・大原健司・栗飯原一郎, 2000. ナニワクチミゾガイの新産地. *ちりぼたん*, 30 (4): 87. 日本貝類学会.

湊 宏・松村 勲, 2000. 陸産貝類. 大阪府における保護上重要な野生動物—大阪府レッドデータブック, p.254. 大阪府.

(2009年版(原田)を一部修正)